

腎嚢胞に合併した腎細胞癌の 1 例

—本邦報告例の嚢胞内溶液の性状—

大阪市立大学医学部泌尿器科学教室 (主任 : 前川正信教授)

大町 哲史, 坂本 亘, 岸本 武利, 河野 学
大山 哲, 上水流雅人, 前川 正信

大阪市立大学医学部第 2 内科学教室 (主任 : 森井浩世教授)

荻 原 聡

大阪市立大学医学部放射線科学教室 (主任 : 小野山靖人教授)

中 村 健 二

A CASE OF RENAL CYST ASSOCIATED WITH RENAL CELL CARCINOMA

—CHARACTERISTICS OF INTRACYSTIC FLUID ASSOCIATED WITH
RENAL CELL CARCINOMA FROM JAPANESE REPORTS—

Tetsuji Omachi, Wataru Sakamoto, Taketoshi Kishimoto,
Manabu Kawano, Akira Oyama, Masato Kamizuru
and Masanobu Maekawa

From the Department of Urology, Osaka City University Medical School

Satoshi Hagihara

From the 2nd Department of Internal Medicine, Osaka City University Medical School

Kenji Nakamura

From the Department of Radiology, Osaka City University Medical School

The patient was a 56-year-old male. Renal cyst and intracystic mass were incidentally found in the right kidney by ultrasound sonography. Intracystic mass was enhanced. At operation, intracystic fluid was clear and yellow, and its cytology was negative. However, rapid histological examination of the intracystic mass showed malignancy. Accordingly, nephrectomy was performed.

We then reviewed the characteristics of the intracystic fluid in renal cell carcinoma reported in Japan and found that 70 % was bloody intracystic fluid and 30% showed positive cytology. These findings suggested that we should be more careful when diagnosing renal cyst associated with renal cell carcinoma only by the examination of the intracystic fluid.

(Acta Urol. Jpn. 38: 323-326, 1992)

Key words: Renal cyst, Renal cell carcinoma, Intracystic fluid cytology, Intracystic fluid

緒 言 症 例

同一腎に腎嚢胞と腎腫瘍が共存または合併する頻度は 2 ~ 7 %¹⁾ と比較的稀である。われわれは、腎嚢胞壁の一部に腎細胞癌を認めた 1 例を経験したので本邦報告例の文献的考察を加えて報告する。

患者 : 56 歳, 男性
主訴 : 腎腫瘍の精査
初診 : 1990 年 3 月 1 日
既往歴 : 50 歳, 胃潰瘍

家族歴：特記すべきことなし

現病歴：1990年2月，第2内科で糖尿病の治療のため外来通院中，偶然に腹部超音波で右腎部に腫瘍性病変が発見され，泌尿器科に精査目的で入院となった。

現症：体格中等度。栄養良。胸，腹部理学的所見なく，外性器，前立腺に異常を認めず。表在性リンパ節は触知せず。

入院時検査所見：血液尿生化学検査は，糖負荷試験で軽度耐糖能異常を認める以外，異常を認めず。

腎部超音波：右腎上極前方に，25×21 mmの境界明瞭で内部は均一な低エコー領域と，内部に7×6 mmの突出する充実性隆起性病変を認めた (Fig. 1 左)。

腎部 CT：嚢胞内部の CT 値は17で，造影効果は認められなかった。しかし隆起性部の CT 値は57で，同部には造影効果が認められた (Fig. 1 右)。また DIP では異常を認めず。右腎動脈造影は病変部は無血管野であり，異常血管は認められなかった。

以上，腎嚢胞内腫瘍の診断で，3月22日手術を施行した。腎嚢胞は，腎上極より発生し薄い嚢胞壁を有し内部に突出する腫瘍を透見できた。腎嚢胞内液体は黄色透明，細胞診は陰性であったが，腫瘍部生検の迅速病理で悪性と診断され，右腎摘出術を施行した。術後の病理検査で，腫瘍は腎嚢胞内壁に接して発生し，淡明亜型腎細胞癌，G1， $1NF\alpha$ ， $pT_1V_0N_0M_0$ で，その他の嚢胞壁には癌細胞は認められず Gibson 分類ⅢまたはⅣ型と診断された (Fig. 2)。

考 察

腎嚢胞と腎腫瘍合併の本邦報告例は，1943年の村上²⁾を最初に，筆者が調べたかぎり89例が報告されている (Table 1)。過去報告例のまとめ^{1,3-5)}とそれ以

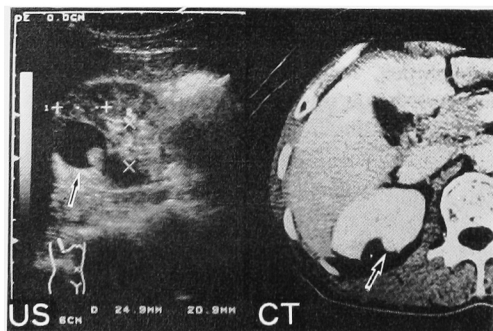


Fig. 1. (left) Ultrasound sonogram showed cystic lesion (25 by 21 mm) with intracyst solid mass (7 by 6 mm) at the upper pole of the right kidney. (right) Enhanced CT showed intracyst mass was enhanced.

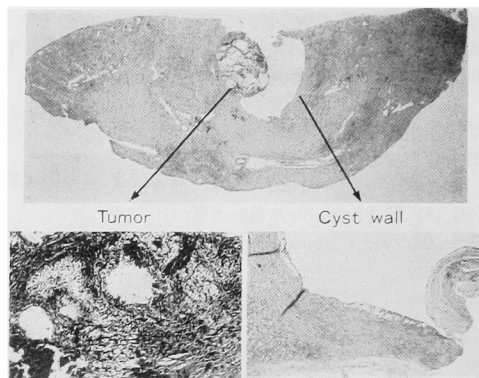


Fig. 2. (upper) macroscopy (lower left; HE ×100) Solid mass was renal cell carcinoma. (lower right; HE ×100) cyst wall was normal.

Table 1. 腎腫瘍と腎嚢胞合併の本邦報告例 (1943～1990)

腎 細 胞 癌	69例 (78%)
男 53例 (77%) : 女 16例 (23%)	
年齢：平均 52歳 (19-73歳)	
腎 孟 腫 瘍	4 例
腎 孟 血 管 腫	3 例
腎 孟 乳 頭 腫	1 例
乳 頭 腺 囊 腫	3 例
血 管 腫	2 例
血 管 内 皮 腫	1 例
乳頭腫+血管腫	1 例
副 腎 腫	1 例
類 副 腎 腫	1 例
不 明	3 例
計	89 例

後のわれわれが調べた症例⁶⁻²⁷⁾を併せると69例が腎細胞癌である。以下腎細胞癌合併例に関し検討する。腫瘍と嚢胞の合併形式では，Gibson 分類²⁸⁾が有名で，腫瘍と嚢胞が離れて存在するⅠ型，腫瘍内部から嚢胞が発生したと考えられるⅡ型，嚢胞壁内に腫瘍が存在するⅢ型，腫瘍の末梢部に接して2次的に嚢胞が発生したⅣ型に分類され，合併形式の理解には都合が良い。しかし摘出標本の検討でさえ正確な分類は困難なことが多い。また腎細胞癌が嚢胞様変性を起こす頻度は4～29%といわれているが，腎嚢胞が癌化するかどうかは不明¹⁷⁾である。

単純性腎嚢胞か否か，診断上有効な情報を提供してくれると考えられる嚢胞内液の性状に関し過去の報告の記載を基に検討した。本邦報告69例中，Ⅱ～Ⅳ型と考えられるのは52症例で，うち31/44例 (70%)が血性，

Table 2. 腎細胞癌と腎嚢胞合併の本邦報告例の嚢胞内容液の性状

		内容液血性	細胞診陽性
Gibson	Ⅱ型	22例: 15/18 (83%)	1/ 5 (20%)
Gibson	Ⅲ型	19例: 12/18 (67%)	3/ 8 (38%)
Gibson	Ⅳ型	11例: 4/ 8 (50%)	0/ 2 (0%)
		52例: 31/44 (70%)	4/15 (27%)

13/44例 (30%) が非血性. 欧米では, 20~35%²⁹⁾, 25%以上³⁰⁾が血性という報告がある. 細胞診は, 陽性が4/15例 (27%), 陰性が11/15例 (73%) であった. そして, 両者共陽性は2/14 (14%) しか認められなかった (Table 2). この正診率の低さは, 腎嚢胞の発生原因が影響すると考えられる. また, 腎嚢胞で嚢胞液が血性である頻度は, 0.3~11.5%³⁰⁾との報告があり, かなり高率である.

以上より, 画像診断で単純性腎嚢胞の基準を満足しない症例に対して, 経皮的な嚢胞内容液の性状だけで良悪を判定するには十分な注意が必要であると思われる.

最後に, 今回われわれは全摘を施行したが, 部分切除術も充分考えられる. どちらにしても予後に有為差はないという報告があり, 今後部分切除術も考えていきたい.

結 語

腎細胞癌と腎嚢胞の合併した1例を経験し, 本邦報告例の嚢胞内容液に関し検討した結果, 嚢胞内容液が血性は70%, 細胞診が陽性は27%であり, 腎細胞癌が合併するか否か, 嚢胞液の結果を元に判定するには十分な注意が必要と思われる.

本稿の要旨は, 第132回日本泌尿器科学会関西地方会において発表した.

文 献

- 1) 松岡則良, 武田祐輔, 安川明広, ほか: 腎嚢胞に合併した早期腎細胞癌の1例. 西日泌尿 50: 1599-1602, 1988
- 2) 村上親義: 食道癌肉腫の2剖検例. 癌 37: 442-451, 1943
- 3) 藤永卓治, 深谷俊郎, 上門康成: 同一腎に発生した腎嚢胞と腎腫瘍の1例. 泌尿紀要 28: 1413-1418, 1982
- 4) 鎌田日出男, 下村隆之, 小浜常昭: 腎腫瘍と腎嚢胞の合併2症例. 泌尿紀要 31: 141-146, 1985
- 5) 伊藤直人, 中野悦次, 高羽 津, ほか: 高度の嚢胞様変性をきたした腎細胞癌の1例. 西日泌尿 47: 483-487, 1985
- 6) 佐竹一郎, 田利清信, 藤原陸憲, ほか: 腎嚢胞に合併した腎細胞癌の1例. 日泌尿会誌 75: 1326, 1984
- 7) 森本義久, 中島吉彦, 新垣光弥, ほか: 腎癌と腎嚢胞の共存例の検討. 日超音波医学会47回研究発表会講論集: 883-884, 1985
- 8) 矢野正憲, 水田耕治, 炭谷晴雄: 腎嚢胞に合併した腎細胞癌の2例. 日泌尿会誌 76: 158, 1985
- 9) 飯ヶ谷知彦, 小山雄三, 中村 聡: Avascular renal tumor の1例. 日泌尿会誌 76: 442, 1985
- 10) 原沢有美, 三宅裕子, 河野 敦, ほか: 腎嚢胞に類似した腎癌の1例. 臨放 30: 311-313, 1985
- 11) 松岡洋一郎, 伊藤網郎, 中村和義, ほか: 腎嚢胞に合併した腎腫瘍. 日医放線会誌 45: 441, 1985
- 12) 岡根谷利一, 米山威久, 村石 修, ほか: 広範に壊死化した腎細胞癌の1例. 臨泌 40: 313-315, 1986
- 13) 五島明彦, 福岡 洋, 北村 創: 多房性腎嚢胞および単純性腎嚢胞に合併した腎腫瘍の2例. 日泌尿会誌 77: 1670-1671, 1986
- 14) 後藤安正, 有吉朝美, 腎嚢胞に合併した腎癌の1例. 西日泌尿 48: 1787, 1986
- 15) 赤倉功一郎, 片海善吾, 北村 温: 腎嚢胞に合併した腎腫瘍の2例. 日泌尿会誌 77: 342, 1986
- 16) 足立雅樹, 鈴木一江, 根本克子, ほか: 多房性腎嚢胞と嚢胞性腎細胞癌. 日医放線会誌 46 臨増: 285, 1986
- 17) 松原昭郎, 藤原政治, 福 重満, ほか: 出血性腎嚢胞の所見を呈した腎癌の1例. 広島県立病院誌 19: 153-157, 1987
- 18) 和田郁生, 森田 隆, 西本 正, ほか: 嚢胞様変性を起こした腎細胞癌. 臨泌 41: 1053-1055, 1987
- 19) 外川八州雄, 狩野建一: 腎嚢胞に類似した腎癌の1例. 日泌尿会誌 78: 1630, 1987
- 20) 岡村武彦, 松山睦司, 増井恒夫, ほか: 巨大腎嚢胞に合併し, 黄色腫との鑑別困難であった腎癌の1例. 泌尿紀要 33: 409-413, 1987
- 21) 鈴木裕志, 和田 修, 藤田知洋, ほか: 腎嚢胞内に腎癌を合併した1例. 日泌尿会誌 79: 941-942, 1988
- 22) 宇都宮正登, 高寺博史, 伊東 博, ほか: 腎細胞癌を伴う微小腎嚢胞の1例. 泌尿紀要 34: 1023-1026, 1988
- 23) 平沢 潔, 本間之夫, 三輪東一郎, ほか: 腎嚢胞と腎腫瘍が合併した1例. 日泌尿会誌 79: 576, 1988
- 24) 堤 雅一, 河合弘二, 佐々木明, ほか: 巨大腎嚢胞を呈した腎細胞癌: 嚢胞壁の吸引生検による術前診断. 西日泌尿 50: 247-249, 1988
- 25) 飯田 如, 江藤耕作: 腎嚢胞に合併した腎細胞癌の1例. 臨泌 43: 1090-1094, 1989
- 26) 石田仁男, 加藤 温, 吉田雅彦, ほか: 嚢胞内に発生した腎細胞癌. 臨泌 43: 697-700, 1989
- 27) 平野章治, 川口正一, 美川郁夫, ほか: 高度な嚢胞様変性をおこした腎細胞癌の1例. 西日泌尿

- 52 : 209-214, 1990
- 28) Gibson TE: Interrelationship of renal cyst and tumors; report of three cases. J Urol **71**: 241-252, 1954
- 29) Harris RD, Goergen TG and Talner LB : The bloody renal cyst aspirate; a diagnostic dilemma. J Urol **114**: 832-835, 1975
- 30) Jackman RJ and Stevens GM: Benign hemorrhagic renal cyst. Radiology **110**: 7-13, 1974

(Received on May 8, 1991)
(Accepted on July 31, 1991)